

## 再現と共有を可能とするデータ可視化方法について Reproducible and shareable data visualization method

\*今井 弘二<sup>1</sup>、村山 泰啓<sup>1</sup>、海老沢 研<sup>2</sup>、池田 大輔<sup>3</sup>

\*Koji Imai<sup>1</sup>, Yasuhiro Murayama<sup>1</sup>, Ken Ebisawa<sup>2</sup>, Daisuke Ikeda<sup>3</sup>

1. 情報通信研究機構、2. 宇宙科学研究所、3. 九州大学

1. National Institute of Information and Communications Technology, 2. Institute of Space and Astronautical Science,  
3. Kyushu University

データが希少であった時代から溢れる時代となり、データマネジメント技術がますます重要視されるようになってきている。我々は、地球惑星科学におけるウェブサービス（Cross-Cutting Comparisons ; C3）を人間可読なクエリ文字列でコントロールするシステムとすることで、図やグラフなどのチャートを再現・共有できる新たな方法を実現した。クエリ文字列には、データの選択や処理手順などが明記されているため、チャートの理解が容易であり、また、同じクエリ文字列をテキストベースのコミュニケーションツールを利用すれば、同じチャートを再現することも可能である。

キーワード：再現性、データの共有、データの可視化、分野横断

Keywords: Reproducibility, Data sharing, Data visualization, Cross-cutting